鹿子田（龍田）の寝地蔵伝説
（別名・雨ふり地蔵）

男鹿市北浦北浦表町　浜野　勇　（68才）

昔、何日も干天が続いて、雨が降らないと雨ふり地蔵を立てた。

この地蔵は、現在、田になっている所から大昔、開墾した時に堀り起したもの。

雨を降らせる時は、その寝地蔵を起して、田から、苗株を一株取ってきて、地蔵の頭の上にあげる。また地蔵の体、全体に泥をぬる。その泥を落して清めようとして、雨をふらせる。それをお祭りしようとすれば、宮司がトスナ（？）をはいて拝んだ。

雨がふらないと、一の目潟に北浦町の農民全員が集って、現在もあるお堂に神主が御祈とうしてそして竜神様をつくって潟に流す。流すと瞬間、雨が一つぶ、三つぶぐらい降ってくる。

そうすると、水口あたりの女の人、たや（？）の女の人が体に墨をぬったり、泥をぬったりする中には男装の女の人もいて、男を素裸にして、泥をぬったりする。

したがって、男も女も素裸になって、体についた墨、泥を自分で水をかぶったり、他人にかぶせたりして、体の墨、泥をおとす。

すると三日ぐらいすると、大体、雨が降ってきたものだ。